名実ともに観光基地

昭和31年11月から大館乗り入れを要望していた国鉄バス定期線の開通が，国鉄，秋北バス双方の話しあいがまとまり，去る20日市役所三階議事堂に，同バス乗り入れ促進特別委員会委員長八神錦三氏を始め，国鉄，秋北バスの両主脳部ら関係者多数出席のもとに盛大に開通祝賀の式典をおこないました。一般運転は10月1日からとなっていますが，時あたかも秋田国体や紅葉の十和田観光シーズンをまえに，この相互乗入れの実現には大きなよろこびと期待がよせられています。（カツト写真祝賀式典，左端，八神特別委委員長）

10月1日からの国鉄バスは，大館駅～十和田南間は急行で停車箇所は，大館駅前―鍛治町―扇田（仲町）―大滝（神社前）―十二所（床屋前）―末広（駅前）―松の木―十和田南駅，これより十和田休屋までは通常運転になります。

運転時刻は

大館駅前	扇田仲町	十二所	休屋着
8，20	8，40	9，01	11，25
11，05	11，25	11，46	14，10
12，20	12，40	13，01	15，25

休屋発	十二所	扇田仲町	大館駅着
6，10	8，24	8，45	9，05
13，00	15，14	15，35	15，55
15，40	17，54	18，15	18，35

特急列車の停車駅も

青森―大阪間の裏日本を縦貫する特急〝白鳥〟（準急白鳥を岩木に改称）を大館駅に停車させようとする誘致運動が昨秋来すすめられてきましたが，いよいよ10月1日から運行が開始されます。

この特急列車〝白鳥〟はデラックスなデーゼルカーで，6輌編成。

青森―弘前―大館―秋田―鶴岡―酒田―新津―長岡―直江津―富山―高岡―金沢―動橋―福井―敦賀―米原―京都―大阪を停車駅として1時間たらずで突走り現行の急行〝日本海〟より8時間ちかくも早い。この特急列車停車の実現は，北陸京阪地方に交易の多い大館にとって産業に観光に果たす役割がきわめて大きい。運転時刻はつぎのとおり。

青森発	大館着	大館発	大阪着
5，20	6，35	6，37	21，12
大阪発	**大館着**	**大館発**	**青森着**
8，05	22，32	22，34	23，50

試乗会に参加して

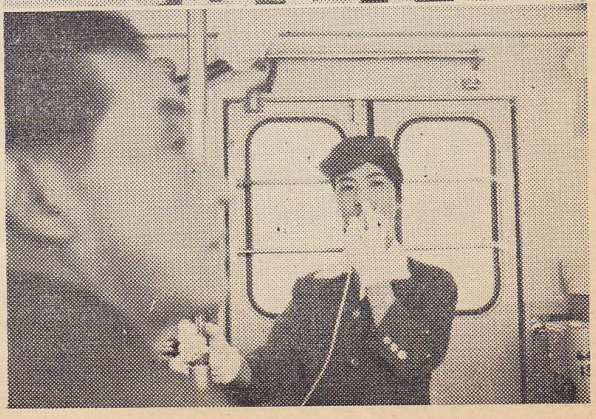
この日，国旗を前に，車内を五色のリボンや万国旗で装飾をこらした国鉄2台秋北2台の試乗車が大館駅前にズラリ。桂城幼稚園の園児から運転者，車掌に花束が手渡された一瞬，駅頭は拍手でうずまり，午前8時30分試乗車はエンジンの音もかるやかに十和田休屋へと向ってスタートした。

空は秋晴れ，全たくのよい天気だ。沿道では稲刈りの手を休めて試乗車を見送くる農夫もいた。やがて車は扇田へ，沿道は小旗を手にした歓迎の人並みでうずまっている。ここでまた花束が贈られてつぎは大滝温泉へ，歓迎の花火と芸妓から花束をうけてこんどは十和田南へ。踏切はすべて降車誘導，安全運転も徹底している。大館線は始めであろうガイド嬢の説明に感心していると，後の試乗客，おそらく国鉄の方であろうか「よく勉強したね――この線は始めてなんでしょう？やっぱり勉強させなきゃ駄目ですね!!」としきりに感心の対話が耳にはいる。

試乗車はやがて十和田南駅へ到着，駅前で花束をうけて再び十和田湖へ，ここからは国鉄ガイド嬢もお手のもの，わが庭を紹介するようなもので一段と説明もこまかい。国体には両陛下をお迎えするとあって道路はすばらしく整備されている，やがて発荷の展望台，眼下に雄大な十和田湖を俯瞰する。この日の十和田湖は風もなく澄み渡って見とおしは上上。

もとの展望台は一角を残してとり除かれ，手前の山は切りくずされて駐車場でもつくるのであろうか，ブルトーザーが整地作業を行っている，残された一角には新しく展望台をつくることだろう。5分停車ののち，試乗車は九十九曲の難コースを右に左にあぶなげなく通過して11時頃，終点休屋へ到着した。

休屋で30分休憩した試乗車は再び大館へ，試乗客は1号車から2号車へと互に乗りかえて出発した。2号車は秋北バス車内はひとしお装飾をこらしている。大館の人には乗り馴れた車という実感も拭いとることはできない。ガイド嬢もえり抜きのベテランであろう，スピーカを流れる説明も自信に満ち，潑溂として泉の如くあとをたたない。

試乗した両者の実感は，車の色彩にも似て対照的だが，それぞれの特徴が心にくいまでに活かされている。

国立公園十和田，八幡平，それはもはや秋田県の，また青森県のものではない日本の公園である。その足を運ぶバス交通を担う国鉄，秋北。共通の公共性に任じて大いに発展されるように希わずにはいられない。午後2時試乗車は祝賀式典場となる市役所前に到着した。（写真上大館駅前での花束贈呈，下，はじめの大館線を説明する国鉄ガイド嬢）